

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 28 日現在

機関番号：32507

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2012

課題番号：22520191

研究課題名（和文） 夏目漱石におけるアジアとヨーロッパ——漱石文庫資料による再検討

研究課題名（英文） Reexamining Asia and Europe in the Works of Natsume Soseki

研究代表者

仁平 道明 (NIHEI MICHIAKI)

和洋女子大学・言語・文学系・教授

研究者番号：00042440

研究成果の概要（和文）：夏目漱石の中国・朝鮮（韓国）を中心とするアジア観およびヨーロッパ観については、中国・朝鮮(韓国)への漱石の視線の背景にぬぐいがたく存在する帝国主義・植民地主義的発想の存在をみる見解や、それと関連して、イギリスを中心とするヨーロッパに対する相対化が不十分であったとする見方が、ほぼ通説化していた。本研究は、漱石の作品・日記・書簡等を分析して通説とは異なる読みを提示するだけでなく、その読みを裏付けるために東北大学附属図書館の漱石文庫資料を調査して、新たな資料を加えて考察し、従来の見解の誤りを訂正して、漱石のアジア観、ヨーロッパ観について従来とは異なる展望をひらいた。

研究成果の概要（英文）：The prevailing views on Natsume Soseki's perspectives on Asia (particularly China and Korea) and Europe are one, that the author's approach to China and Korea is virtually inseparable from the influence of imperialist and colonialist ideas, and two, that he took an insufficiently relativistic approach towards Europe in general and towards England in particular. This paper analyzes Soseki's published works, diaries, and correspondence to offer a reading that is different from leading opinions, and further, to establish support for this alternative reading based on a thorough examination of works collected at the Tohoku University Library as well as new sources. Inaccuracies in the conventional perspective will be corrected, while a larger survey of Soseki's views on Asia and Europe will be presented to challenge the status quo.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2012年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	3,000,000	900,000	3,900,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：夏目漱石・アジア・ヨーロッパ・漱石文庫・渡航日記・滞英日記・中国・韓国

1. 研究開始当初の背景

(1)夏目漱石のアジア——中国・朝鮮(韓国)観については、例えば『満韓ところどころ』には、「朝鮮・中国人」に比べ相対的に上位を確保した「日本人」像を見出し、西欧に対して感じていた劣等感を忘れて優越感へすり替えようとする強い気持ちが散見される。(中略)言ってみれば、かつてアジアにおける一人の日本人として西欧列強に憤りを感じていた漱石だが、日本帝国とアジア諸国との関係になると、アジア民族の苦痛とか悲しみを一向に顧みようとしない。これこそ明治知識人漱石の限界であろう。」(「夏目漱石『満韓ところどころ』——明治知識人の限界と「朝鮮・中国人」像」とする韓国の研究者崔明淑のような見解がある。そしてそのような見方は特異なものであったわけではなく、「漱石のような人のなかにもあった中国人観、朝鮮人観、それが、ごく自然に帝国主義、植民地主義にしみていた」(中野重治)、『満韓ところどころ』では、日本帝国主義の先兵としての満鉄の役わりにも、抑圧と搾取のもとにある中国民衆の状況にも、鈍感で無知な感想をならべているのをみれば、民族の歴史的矛盾は個人のうちに深くくいこんで拭いがたいことが痛感される。」(針生一郎)等の見解のように、漱石の内なる帝国主義・植民地主義的発想の存在を指摘する見解が少なくない。そのようなアジアに対する漱石の限界を見ようとする見解の多くは、「ヨーロッパを留学の体験によって相対化した漱石、あるいは前掲した崔明淑論文のようなそれとは逆の「ヨーロッパに対する劣等意識をぬぐえなかった漱石」という図式を措定し、それとの対比でアジア——中国・朝鮮(韓国)への漱石の視線の背景にぬぐいがたく存在する帝国主義・植民地主義的発想の存在をみるものであった。

(2)ほぼ通説化しているようにも思われるそのような見解は、「満韓ところどころ」や漱石の日記・書簡等の不十分な読解によったものであり、それに対して、「夏目漱石におけるアジアとヨーロッパ——漱石文庫資料による再検討」と題する本研究は、その誤りを修正する読みと同時に、それを裏付ける資料として、漱石文庫資料を調査、検討することによって、従来の見解の誤りを訂し、実証的に漱石のアジア観、ヨーロッパ観について従来とは異なる展望をひらこうとしたものであった。

(3)研究代表者は、イギリスを中心とする漱石のヨーロッパ観について、漱石文庫資料を調査研究して漱石の留学中・帰国後のイギリスへの思いを確認することによって得た見通しを、論文・研究発表・講演によってその一部を示し、アジア——中国・朝鮮(韓国)観についても、台湾での国際学術研究会発表論文等において、従来の「満韓ところどころ」の不十分な読みを前提とした見解の誤りを指摘してその基礎となる作業を行い、本研究の計画を立案するに至った。

2. 研究の目的

(1)夏目漱石のアジア観、ヨーロッパ観についての従来の大方の見方は、ロンドン留学の体験を経て漱石はヨーロッパを相対化する視座を有してはいたものの、アジア——中国・朝鮮に対しては帝国主義、植民地主義の枠組みからの発想を脱することができなかった、そしてそれがその時代の日本人としての漱石の限界であった、とするものであった。

(2)本研究は、漱石の作品・日記・書簡等に限らず、東北大学蔵漱石文庫の資料を検討し、「渡航日記」「滞英日記」等諸資料の漱石全集未翻刻部分の記事を調査・研究することを中心に、漱石のアジア観、ヨーロッパ観に再検討を加え、通説化しつつある見解とは異なる漱石像を再構築することを企図した。

(3)3年間にわたる計画によって、従来の見方とは異なる漱石のアジア観、ヨーロッパ観を明らかにし、明治の知識人の代表としての漱石について、帝国主義・植民地主義の枠内での発想しか持ち得なかったという大方の見方を修正し、日本における漱石の評価のみならず、国際的に高い関心を寄せられている夏目漱石についての外国の研究者の多くがとっている見方を修正し、日本の作家、知識人の代表としての漱石における帝国主義・植民地主義と関わりについての誤解をとくことを本研究の課題、目的とした。

3. 研究の方法

(1)本研究は、「研究目的(概要)」にも記したように、漱石のアジア——中国・朝鮮(韓国)観、イギリスを中心とするヨーロッパ観を、漱石の作品・日記・書簡等の検討に加えて、東北大学蔵漱石文庫の資料を調査・研究し、実証的に明らかにすることを企図したものである。そのために、アジア観については、「満韓ところどころ」等の作品・日記・書簡・

随筆・談話等の記述の読解と分析に加えて、漱石文庫蔵の従来ほとんど問題にされてこなかったアジア関係資料——「朝鮮歴史地理第二（歴史調査報告第二）」「統監府通信事業第二回報告」「安重根事件公判速記録」「極東の外交」等の朝鮮・満洲等に関する諸資料の調査・研究を行って、漱石のアジア——中国・朝鮮(韓国)観を明らかにしようとした。またヨーロッパ観については、従来問題にされてきた漱石の発言に加えて、「渡航日記」「滞英日記」等漱石文庫蔵の諸資料の漱石全集未翻刻部分の記事の調査・研究、従来詳細な調査・研究が行われなかった、留学中に購入した資料及び帰国後に購読を続けた美術雑誌等の調査・研究とその分析・研究を行って、漱石のヨーロッパ観を明らかにしようとした。そして、その結果を踏まえて、総合的に漱石のアジア観とヨーロッパ観の連関を明らかにするという方法をとった。

(2)漱石のアジア——中国・朝鮮(韓国)観、イギリスを中心とするヨーロッパ観は、それぞれ独立した検討課題であると同時に、密接に連関する問題であり、その一方のみを研究するだけでは不十分な結果しか得られないことは論を俟たない。そこで本研究では、申請した3年の研究期間内に、漱石のアジア——中国・朝鮮(韓国)観、イギリスを中心とするヨーロッパ観を、実証的に明らかにするために、従来行われてきた漱石の作品・日記・書簡等の検討に加えて、東北大学蔵漱石文庫の資料を中心に、以下の調査・研究を実施することとした。

①「朝鮮写真帖」「韓国鉄道線路案内」「朝鮮歴史地理第二（歴史調査報告第二）」「統監府通信事業第二回報告」「南満洲写真大観」「紅蔘専売及人蔘税法規類纂」「安重根事件公判速記録」「極東の外交」等の朝鮮・満洲等に関する諸資料の調査・研究。

②「渡航日記」「滞英日記」等諸資料の漱石全集未翻刻部分の記事の調査・研究、従来詳細な調査・研究が行われなかった、イギリスで購入した資料及び帰国後に購読を続けた美術雑誌『ザ・ステューディオ』(The Studio)等の調査・研究とその分析・研究。

③その結果を踏まえた漱石の作品・日記・書簡等の記述・記事との比較検討による、総合的な漱石のアジア——中国・朝鮮(韓国)観、イギリスを中心とするヨーロッパ観、その連関の考察と解明。

4. 研究成果

(1)前述したように、本研究は、従来行われてきた漱石の作品・日記・書簡等の検討にとどまらず、東北大学附属図書館蔵の漱石文庫資料の漱石全集未翻刻・未収載の記事・記述を調査、研究することによって、実証的に漱

石のアジア——中国・朝鮮(韓国)観及びイギリスを中心とするヨーロッパ観を明らかにするための資料を収集して分析、考察し、さらにその連関を考察して明らかにするところに、その独創的な学術的特色があった。

(2)まず漱石のアジア——中国・朝鮮(韓国)観については、その考察の準備のための作業として、漱石文庫のこれまで問題にされず、研究資料としてとりあげて来られなかったアジア関係資料——「朝鮮写真帖」「韓国鉄道線路案内」「朝鮮歴史地理第二（歴史調査報告第二）」「統監府通信事業第二回報告」「南満洲写真大観」「紅蔘専売及人蔘税法規類纂」「安重根事件公判速記録」「極東の外交」等の朝鮮・満洲等に関する諸資料を調査し、そのうちの重要な部分の写真撮影を行い、研究資料の収集を行った。また漱石文庫以外の満洲を中心とする中国関係資料及び朝鮮(韓国)関係資料を収集した。

(3)上記の漱石関係資料の調査と考察、さらには「満韓ところどころ」等の作品・日記・書簡・随筆・談話等の記述の読解と分析によって、漱石がアジア——満洲を中心とする中国・朝鮮(韓国)に深い関心を持っていたこと、従来の「アジア民族の苦痛とか悲しみを一向に顧みようとしない」「抑圧と搾取のもとにある中国民衆の状況にも、鈍感で無知な」漱石漱石という評価が誤りであることを明らかにした。

(4)その成果を日本国内で発表するだけでなく、その一部を、「5. 主な発表論文等」の〔学会発表〕に記したように、3年間の研究期間中に、韓国、中国、台湾で開催された国際シンポジウム、講演会等で発表し、特に漱石のアジア観について批判的な見方がとられることが多い韓国、中国の研究者に対して、研究代表者の研究成果に基づく見解を示し、その理解をある程度得ることができた。

(5)漱石のイギリスを中心とするヨーロッパ観については、まずその基礎作業として、漱石文庫蔵の「渡航日記」「滞英日記」等の諸資料の漱石全集未翻刻部分の記事、従来詳細な調査・研究が行われなかった、留学中に購入し帰国後にも購読を続けた美術雑誌『ザ・ステューディオ』(The Studio)、漱石がそれに掲載された絵によって描いたと考えられる自筆の絵画等を調査し、写真撮影を行って、資料を収集した。

(6)その資料等の分析と考察の結果、漱石のイギリスを中心とするヨーロッパ観の形成に大きく関わったと考えられる2年余りの留学期間中の生活と人間関係、絵画等に寄せ

た関心からうかがえるイギリスを中心とするヨーロッパへの思いの内実等を明らかにし、漱石がイギリスを中心とするヨーロッパを相対化していたとする従来の大方の見方のように単純化して把握すべきではなく、イギリス・フランス等に対する肯定的な見方、愛着の思いをも確認することができた。また、「留学生活への不適応からくる神経衰弱」というような単純で不正確な把握の問題点も明らかになった。

(7)上記(1)から(6)の成果を総合し連関させて考察することによって、従来の「ヨーロッパを留学の体験によって相対化した漱石」あるいはそれとは逆の「ヨーロッパに対する劣等意識をめぐえなかった漱石」という理解と把握を修正することが可能になった。

(8)これまで述べたような成果によって、日本における漱石の評価のみならず、国際的に高い関心を寄せられている夏目漱石についての外国の研究者の多くがとっている見方を修正し、日本の作家、知識人の代表としての漱石における帝国主義・植民地主義と関わりについての誤解をとくことも一部実現し、本研究が、国際的に漱石像のとらえなおしにつながっていくことに発展することが期待される。

(9)なお、平成25年(2013)1月7日(月)に同日発行の『朝日新聞』『毎日新聞』『読売新聞』『産経新聞』『日本経済新聞』等新聞各紙に、『満洲日日新聞』明治42年(1909)11月5日・6日両日にわたって掲載された漱石の「韓満所感(上)」「韓満所感(下)」についての記事が載った際に、『産経新聞』朝刊掲載の記事「吾輩の全集未収録随筆である——明治42年「満洲日日新聞」に寄稿」に、研究代表者は事前に相談を受けて意見を言い、また「漱石のアジア観を考える時に重要な意味を持つ部分もあり、貴重な資料だ」という研究代表者のコメントが掲載され、新聞各紙の中で唯一『産経新聞』だけが漱石の「支那人」(中国人)、「朝鮮人」(韓国人)と日本人としての自分について述べた記述を引用し報道し、当該資料が漱石のアジア観についての重要な資料として注目を引くことになったのは、研究代表者の本研究を背景とする部分があったことを付言しておきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ① 仁平道明、女性の生と結婚、〈アジア遊学〉東アジアの結婚と女性、査読無、2012、

pp.4-18

- ② 仁平道明、漱石文庫蔵「博士号辞退文献」について、査読無、武蔵野文学(特集「漱石の気骨」)、第59集、2011、pp.1-5(写真頁)
- ③ 仁平道明、「坊っちゃん」の家族愛、査読無、武蔵野文学(特集「漱石の気骨」)、第59集、2011、pp.16-22
- ④ 仁平道明、紹介：清田文武著『近代作家の構想と表現——漱石・未明から安吾・茨木のり子まで』、日本近代文学、査読無、第83集、2010、pp.297
- ⑤ 仁平道明、〈開かれた結末〉と〈綴じられた〉の二元論をこえて、国文学解釈と鑑賞(特集「〈終わり〉を読む——近現代文学篇」)、査読無、第75巻9号、2010、pp.6-14

[学会発表] (計5件)

- ① 仁平道明、漱石のアジア観——漱石全集未収録「韓満所感」をめぐって——、台湾大学日本語文学系所講演会、2013年3月21日、台湾大学(台湾・台北市)
- ② 仁平道明、漱石全集未収録「韓満所感」と漱石のアジア観、忠南大学校日本語文学科講演会、2013年3月14日、忠南大学校(韓国・大田市)
- ③ 仁平道明、夏目漱石とアジア、東北師範大学文学院学術名家講壇、2012年9月6日、東北師範大学(中国・長春市)
- ④ 仁平道明、国家を超えて——夏目漱石における韓国・中国、2012年度韓国日本研究総連合会国際学術大会、2012年4月14日、釜慶大学校(韓国・釜山市)
- ⑤ 仁平道明、日本近代文学における〈弱者〉と〈加害者〉、2010年韓国外国語大学校日本文学講演会、2010年9月15日、韓国外国語大学校(韓国・ソウル市)

[図書] (計2件)

- ① 仁平道明編、〈アジア遊学〉東アジアの結婚と女性、2011、勉誠出版、pp.4-18
- ② 仁平道明・前田智彦編、武蔵野文学(特集「漱石の気骨」、武蔵野書院、pp.1-5(写真頁))・pp.16-22

6. 研究組織

(1)研究代表者(NIHEI MICHIKI)

仁平 道明

和洋女子大学・言語・文学系・教授

研究者番号：00042440

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者 ()
研究者番号 :